

## M51a 活動領域 NOAA9026 のフレア発生前増光現象と磁気構造進化

森本 智彦 (茨城大学)、永田 伸一、萩野 正興 (京都大学)、山本 哲也 (東京大学)

GOES X クラスの大規模フレアのフレア発生前の活動領域の彩層底部を TRACE 衛星 1600Å 画像で時間変動解析をおこなうと、フレア発生前の「予兆現象」として増光が確認されている (齊藤 他 2005 年春季年会 M02)。これは彩層底部に蓄えられた磁場のエネルギーがフレア発生前から徐々に開放されはじめているものと考えられる。

そこで本研究では、彩層底部での増光現象と磁場の関係を探るために、予兆現象発生箇所の光球 3 次元磁場構造の詳細解析を実施した。さらに、光球から上空へのエネルギー伝達を、草野他 (Kusano et al 2002) の手法を用いて磁気ヘリシティ入射量を評価した。

今回活動領域 2000 年 6 月の NOAA9026 に対して増光現象近傍に対して評価をおこなったところ、顕著となるような特徴をみることができなかった。しかし浮上磁場によるヘリシティ入射量が増光近傍では正負の両方のパターンが見られ、そのほかの領域ではどちらか一方に偏っている傾向が見られた。本発表では他の活動領域での特徴を発表する。